

研究機関名：東北大学病院

受付番号： 2014-1-639	
研究課題名 早期胃癌内視鏡治療後の異時性多発胃癌、食道扁平上皮癌の発生危険因子の検討	
研究期間 西暦 2015年 1月（倫理委員会承認後）～ 2018年 1月	
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療録）	
上記材料の採取期間 西暦 2003年 6月～ 2012年 11月	
意義、目的 医療機器・技術が進歩に伴い、早期胃癌に対する治療法として内視鏡治療の割合が多くなってきているが、それとともに、早期胃癌内視鏡治療後の異時性多発胃癌が問題となっている。また、食道扁平上皮癌と胃癌は同時性発生の報告があるが、早期胃癌内視鏡治療後の食道扁平上皮癌発生割合に関しては報告されていない。 食道扁平上皮癌発生の危険因子としては、飲酒、喫煙、胃癌発生の危険因子としては、 <i>Helicobacter pylori</i> (<i>H. pylori</i>)、飲酒、喫煙、Body mass index、性差などとの関連性がいわれている。しかし、早期胃癌内視鏡治療後の食道癌発生危険因子については、これまでに報告はなく、異時性多発胃癌発生に関しては、 <i>H. pylori</i> 除菌が有用との報告があるのみである。そこで、早期胃癌内視鏡治療後の異時性多発胃癌発生、食道扁平上皮癌発生の割合、関連因子を明らかにすることを目的とした。	
方法 2003年6月～2012年11月の間に当科にて早期胃癌内視鏡治療を行った患者のうち、胃切除を治療前後で行った症例、内視鏡での経過観察期間12か月未満の症例を除いた540症例を対象とし、後方視的検討を行う。早期胃癌内視鏡治療後の異時性多発胃癌、食道扁平上皮癌の発生割合について、検討する。また、早期胃癌内視鏡治療後の異時性多発胃癌、食道扁平上皮癌発生の関連因子検索のため、年齢、性別、 <i>H. pylori</i> 除菌歴、Body mass index、飲酒、喫煙などの因子について解析を行う。	
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院消化器内科 実施責任者 飯島 克則 事務局 八田 和久 住所：仙台市青葉区星陵町1-1 TEL: 022-717-7171	